

地域で始める、登下校安全の取組 ～地域の子は、地域で育てよう～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働活動
南丹市立 園部小学校	園部小学校学校運営協議会 平成29年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 1名 1名 地域コーディネーター 0名 0名	園部小学校地域学校協働活動



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

南丹市の園部地域において、地域住民の少子高齢化が進み、人口減少が進んでいる。また、子育てについては、3世代同居家族が減り、子どもを親だけで育てる家庭も多くなっているという状況がある。

また、地域と学校が熟議の中で、「子育ては、学校だけに任せものではないのではないか。」と、地域の方から意見が出された。そこから、「地域の子どもは、地域で育てる」ための取組を進めようと確認された。

目標や目指す姿(学校)

考える子・やさしい子・努力する子・たくましい子

目標や目指す姿(地域)

地域を愛する子・学校を愛する子・たくましい子



園部小学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 保護者(PTA役員) | <input type="checkbox"/> 教務主任 |
| <input type="checkbox"/> 地域住民 | <input type="checkbox"/> 地域連携担当職員 |
| <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動推進員 | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 校長 | など、計 13 名で構成 |
| <input type="checkbox"/> 教頭 | 年間平均 8 回程度開催 |

効果的な運営の工夫

- ・誰もがフラットにどんなことでも意見が言える場づくり。
- ・協議した内容が具現化したことはすぐに委員で構成するLINEグループで共有し、進捗状況を共有すると共に、自分たちが協議したことで学校や地域を変えていける実感を共有している。
- ・ワークショップを適宜取り入れ、対話の中で生まれるアイデアを拾い上げ具現化に繋げるなど、委員のモチベーションを上げている。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

「地域の子どもは、地域で育てよう」を合い言葉に、PTA、自治会等と連携しながら進めている。「見守り部」「学習部」「環境部」に分かれ、現在の進捗状況や今後の計画を共有している。見守り活動については、学校運営協議会会長等が地域住民(区長等)と対話を重ね、子どもを見守っていくことに対する想いを共有している。



各部に分かれて協議中

地域学校協働活動

登下校の見守り活動については、保護者や地域にステッカーを作成し、配付した。また、地元の郵便局に趣旨を伝え賛同を得、配達中に子どもの見守りをしてもらうことが実現できた。自治会にも協力依頼。地域の高齢者に子どもと関わりをもってもらうことができた。



郵便局員が配達中に見守り

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

- 年間の会議については回数の制限を設けず、協議会で委員の思いを確認しながら必要性に応じて開催している。
- 地域学校協働活動推進員が、学校運営協議会の思いを受け、幅広く地域の方に関わってもらうことで、活動が地域に広がって行っている。
- 誰もが参加しやすく、やってみようと思える活動から関わってもらうことで、当事者意識をもち長く続く活動につながっている。

取組

成果・効果

- 登下校の見守りを行う「見守り隊」の増員
 - ・見守り隊の活動を広報紙で地域住民に配付
 - ・「見守りステッカー」の配付(ステッカーのデザインは地域住民が担当)
 - ・「見守りステッカー」は、全校児童の家庭、地元自治体にも配布し、多くの方が趣旨に賛同し自家用車等に貼付している。
 - ・地元郵便局の配達バイクにステッカーを貼付→南丹市全域に広がりを見せる。
(地元郵便局の配達地域に限定されていたが、郵便局の連携により市内全域をカバーすることになった。)
- 地域住民の地域学校協働活動への理解が深まる
 - ・取組を通して地域学校協働活動に賛同し、積極的に活動に参加する地域住民が増える。(→ゲストティーチャーが増える)
 - ・「地域の子どもは、地域で育てる」意識が高まった。多くの自治会が協力し、子ども達に声かけをしてくださるようになった。
- 地域の方が元気になる
 - ・子どもとの関わりが増え、高齢者が積極的に外出をするようになった。